

8月9日のレッスン

最初のキリスト教殉教者

鍵となる聖句：「ステパノは、信仰と力に満ちて、民の間で大きな不思議と奇跡を行っていた。」

使徒言行録 6:8

関連聖句：

使徒言行録 6:7-10; 7:1-60

ステパノの殉教は、初代教会が急速に成長した時期を経て、ペンテコステの直後に起こったものと見られる。その平和と成長の季節は、まもなく訪れる試練に備えて信者たちを準備させた。ステパノの死は、教会に対する迫害の始まりを告げるものであり、キリストの弟子たちが死に至るまで忠実であり続けるよう求められていることを示した。ヨハネの黙示録2:10

もともと会衆の実務的な必要を助けるために選ばれたステパノは、並外れた霊的な強さと才能を持つ人物であることが証明された。彼は「信仰と聖霊に満ちていた」（使徒言行録 6:5）と記されている。主に対する彼の信仰、愛、そして熱意は、彼を真理の力強い証人とした。彼の知恵と聖なる霊は極めて際立っていたため、敵対者たちは彼に対して有効な反論をすることができなかった。使徒言行録 6:10

ステパノの論理に打ち勝つことができなかった敵たちは、虚偽かつ歪曲された証言を用いて、彼をサンヘドリンの前に引き出した。死に至る可能性のある告発に直面しながらも、ステパノは恐れを見せることはなかった。むしろ、彼の顔には平静さと清らかさ、そして神に対する 確信が表れていた。使徒言行録**6:15**によれば、評議会に席を置いていた者たちは皆、「彼の顔がまるで天使の顔であるかのように見えた」と述べている。

使徒言行録**7章2節**から**53節**に記録されている、ステパノのサンヘドリンでの演説は、勇気とイスラエルの歴史に対する深い知識の両方を示していた。その締めくくりの言葉において、彼は聴衆に対し、神に逆らい、イエスを拒絶した責任を負っていることをはっきりと告発した。（使徒言行録**7:51-53**）彼らは悔い改めるどころか、激怒した。ステパノは彼らの怒りが高まる中でも動じなかった。彼は天の栄光の幻を与えられ、イエスが神の右の座に立っておられるのを見たと言った。この発言により、告発者たちは裁判を打ち切り、彼を石打ちの刑に処した。タルソのサウロもその場に居合わせ、この行為に賛同した。使徒言行録**7:54-60**

ステパノは息を引き取る際、自分自身のためだけでなく、自分を殺そうとしている者たちのためにも祈り、彼らの罪が彼らに帰せられないよう願った。この点において、彼はキリストの御霊を体現していた。**60節**では、彼の死を「眠り」と表現している。間違いなく、ステパノは復活を信じており、やがて死の「眠り」から目覚めることを確信

していたのである。「先祖たちと共に眠った」という表現は、旧約聖書に**40**回近く登場し、死の眠りを指しています。

サタンに苦しめられていたヨブは、復活の朝が来るまで死の眠りの中で安らぎを得たいと願い、「どうか、私を墓の中に隠してください！ あなたの怒りが過ぎ去るまで、私を覆ってほしい！ 墓で過ごす期間を決めて、それから私を再び引き上げてほしい！」（ヨブ記**14:13**）と、死の眠りによる安らぎを願った。イエスはヨブのこの言葉を裏付け、「墓にいる者たちは皆、その方〔人の子〕の声を聞いて、出て来る」と語られた。（ヨハネによる福音書**5:28,29**）

ステパノの忠実な証しは、後の信者たちにとっての模範となりました。迫害の形は変わっても、キリストのために忠実に苦難に耐えるという召命は変わりません。ステパノは、ペンテコステ以降、聖書に記録されているキリスト教時代の最初の「克服者」であり、「最初の復活」に与るにふさわしいと認められた人物でした。（ヨハネの黙示録**20:6**）彼の生涯と死が、私たちが恵みをもって語り、勇気をもって立ち、主から目を離さないよう励ましてくれることを願います。